**当院におけるリバース型人工肩関節置換術の成績**

**真生会富山病院　整形外科　○太田　悟　　駒井　理　　小野地　雄貴**

**2014年以降、当院でリバース型人工肩関節置換術行った症例について検討を行った。症例は30例年齢は平均79.3（71-94）才である。対象疾患はCTA15例、広範囲腱板断裂5例、RA3例、上方関節包再建術後3例などである。検討項目は術後の関節可動域およびJOAの疼痛点数、術後上肢の延長量、術中、術後合併症である。結果：術後上肢長の延長量は平均15.3 mmであった。JOA疼痛点数は術前16.5点から術後3ヶ月で25.6点、術後６ヶ月で26.4点と改善し有意差がみられた。前方拳上角度は術前47.5°から術後3ヶ月で107.2°術後６ヶ月で122.9°と改善し有意差がみられた。一次修復困難な腱板断裂や関節症患者に対し短期ではあるが良好な疼痛、機能の回復が見られた。しかし、サイズが小さく骨質の低下した高齢女性ではインプラントの設置、周辺骨折に注意が必要である。**